

表のタイトルは表の上に
図・写真のタイトルは下に記載する

和文タイトルはゴシック体
英文タイトルはTimes New Romanの太文字に

表-1 表の作成例

組骨材の 最大寸法 (mm)	スランブ (cm)	水セメン ト比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単体量 (kg/m ³)				
					水 W	セメント C	細骨材 S	粗骨材 G	混和剤 A
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。
また、参考文献の後（文末）には配置しないこと。

なお、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上あけること。

章・節・項の「見出し」はゴシック体にする

4. 参考文献について

4.1 参考文献

参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。また、参考文献に記載した文献は、本文で必ず引用すること。

参考文献の見出し、「結論」あるいは「まとめ」の後にゴシック体の参考文献と明記し、フォントの大きさは9ポイントとすること。

参考とした文献名のフォントは、明朝体、Times New Roman とし、大きさは9ポイントとする。また、使用順に 1), 2) のように番号をふり、まとめて掲げること。

文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で^{1),2),3)}・・・のように明記しておくこと。

参考文献は文末に記載し、左・右の段を揃えて書き終えるように原稿を作成すること。

4.2 記載方法

(1) 論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

(2) 単行本の場合

著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月の順とする。

(3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。著者が5

図・表・写真と本文との間は、1行以上あける

名以上の場合には、筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

欧文文献の著者名は、姓を先に記し、名はカンマの後にイニシャルで示す。著者が4名以上の場合には、筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

(4) 発行年月

和文文献の場合、西暦に統一して、1988.11, 1991.2 のように記す。欧文文献では、Nov.1988, Feb.1991 のように記す。

「見出し」のみゴシック体、大きさは9pt

参考文献（記載例）

- 1) 小林一輔，魚本健人，嶋 文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17, No.5, pp.87-95, 1979.5
- 2) 大津政康，鎌田敏郎，山田和夫，永山 勝：コンクリート構造物の診断のための非破壊試験方法研究委員会報告，コンクリート工学年次論文集，Vol.23, No.1, pp.35-40, 2001.6
- 3) 岡田 清，六車 照編：コンクリート・ハンドブック，朝倉書店，1981
- 4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec.1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non- Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980

・本文の文末は、左・右の段を揃えて書き終える

・参考文献の後に、図・表・写真等を配置しない

・本文の長さは、5 ページ目の両段 30 行以上、6 ページ以内とする

参考とした文献名のフォントは、明朝体・Times New Roman、大きさは、9pt とする